

2026年度 博士前期課程入学者選抜(Ⅱ期)
学 力 検 査

専 門 科 目
(英語・英語教育コース)

英 語 教 育 学

[英語教育学]

以下の3つの問いに解答しなさい。解答は解答用紙に記入しなさい。

1. コミュニケーションを目的とした英文法指導の意義と課題について日本語 400 字程度で詳述しなさい。
2. 海外留学の効果を実証的に調べる場合に必要な研究計画と研究方法について日本語 400 字程度で述べなさい。
3. 次の5つの用語をそれぞれ150字程度の日本語で説明しなさい。
 - ① washback effect (波及効果)
 - ② sociolinguistic competence (社会言語能力)
 - ③ contrastive analysis (対照分析)
 - ④ instrumental motivation (道具的動機づけ)
 - ⑤ input hypothesis (インプット仮説)

2026年度 博士前期課程入学者選抜（Ⅱ期） 学力検査
専門科目（英語・英語教育コース） 英語教育学

《解答・解答例》

論述試験のため出題の狙いを示す。

1

【出題の狙い】

本設問は、文法指導を単なる規則の習得ではなく、コミュニケーション能力育成のための言語使用と関連付けて理解しているかを評価する。文脈提示、意味・機能を重視した指導、学習者の気づきを促す活動など、第二言語習得研究や授業実践を踏まえて説明できることを求めている。

2

【出題の狙い】

本設問は、海外留学の教育効果を検証するための研究計画、研究デザイン、データ収集、分析方法に関する基礎的理解を評価する。事前・事後調査や統制群の設定、量的・質的研究方法、研究上の課題について説明できることを求めている。

3

【出題の狙い】

本設問は、英語教育学および第二言語習得研究における基本的概念・専門用語についての理解度を評価する。各用語の定義だけでなく、英語教育や第二言語習得研究における意義、関連概念との違いを説明できることを求めている。

《出題の意図》

本問題は、英語教育学および第二言語習得研究に関する基礎的知識と、それらを学校教育における英語授業や研究活動に関連付けて説明する能力を評価することを目的としている。設問1ではコミュニケーション重視の文法指導、設問2では英語教育研究における研究計画と方法、設問3では専門用語に関する基礎的理解を確認する。難易度としては、英語教育を専門とする学部卒業レベルの知識を前提とし、大学院修士課程への進学に必要な専門的基礎力を評価する問題である。